そよかぜ

毎日新聞西部社会事業団だより

第73号　2009年２月

発行所　〒802－8651
北九州市小倉北区紺屋町13-1
(財)毎日新聞西部社会事業団
発行人　田上　猛
電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
E-mail:s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
郵便振替　01770-2-40213
ＵＲＬ　http://www.mainichi.co.jp/seibu_shakaijigyo/

「ご協力、ありがとうございました」

バザーの益金を寄付する八幡西勤労青少年ホームの関係者（中央と右端）

募金総額は997万余円

歳末助け合い「愛の義援金」　海外難民救援金が急増

毎日新聞社と当西部社会事業団がお願いした08年度の歳末助け合い募金「愛の義援金」の集計結果がまとまった。海外難民救援金の急増で、募金総額は1185件、997万7735円と前年度を大幅に上回り、小児がん征圧募金を含めた指定寄付は全体の40％を超えた。一般募金は児童養護施設や母子施設、障害児施設などの子どもたちへの新入学・卒業の祝い品プレゼントや福祉諸団体への助成金として、他の指定寄付は関係の機関・団体へ配分します。ご協力、ありがとうございました。

指定寄付が40％を超す

「愛の義援金」は毎年、12月の約1カ月間を募集期間と定め、過去に何らかの募金を頂いた方や歳末チャリティー展でご購入頂いた方々などに募金をお願いするチラシや振込用紙などを郵送し、08年度は約8000人の方々にご協力をお願いした。

その結果、例年通り11月末ごろから徐々に集まり始め、師走スタートとともに続々と寄せられ、連日50件を超す振込通知が届いた。特に週明けの月曜日は120件以上になるなど、担当スタッフのうれしい悲鳴が続いた。開始前は昨年後半からの急激な不況が募金にも影響するのではないかと懸念されたが、総件数は1185件と前年度に比べ49件増え、募金総額も997万7735円と同214万7735円も増えた。

増加の最も大きな要因は海外難民救援金の急増だ。歳末募金の開始よりに紙面と連動した海外救援キャンペーンの連載「子ども貧困を越えて―バングラデシュ報告」がスタートし、紙面で海外救援金へのご協力を呼び掛けたところ、大勢の方々がこれに応えてくれた。

個人でポンと2百万円

期間中に寄せられた海外救援金は222件、359万2658円で、前年度に比べ件数で120件も増加、金額では306万7992円と急増した。この中には個人でポンと200万円寄付して下さったケースもあるなど、紙面キャンペーンの反響が大きかった。このほか、小児がん征圧募金は104件、48万0642円（前年度90件、48万5387円）寄せられ、海外救援金と合わせた指定寄付金は募金総額の41％に達した。

一方、児童福祉施設の恵まれない子どもたちへのお祝い品プレゼントなどに充てる一般募金は859件、590万4435円と、前年度に比べ件数で85件減り金額では約92万円少なくなった。

一般募金から振込手数料などの募金経費を除いた約480万円は歳末事業資金として活用する。恵まれない子どもたちへの祝い品プレゼントや福祉団体への助成金に充てるが、不足する約200万円は歳末チャリティー即売展の益金から補てんすることにしている。各県別の募金は別表の通り。

◇08年度歳末助け合い募金県別集計

	08年度歳末募金		07年度歳末募金		前年度比	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
北九州市	394	2,788,104	415	2,950,731	-21	-162,627
福岡市	100	873,313	106	1,130,152	-6	-256,839
その他	237	3,660,042	220	1,345,579	17	2,314,463
福岡県計	731	7,321,459	741	5,426,462	-10	1,894,997
山口県	307	1,585,143	275	1,572,735	32	12,408
佐賀県	21	135,000	16	134,000	5	1,000
長崎県	39	239,733	36	210,694	3	29,039
大分県	34	205,000	32	215,100	2	-10,100
熊本県	22	194,400	14	136,000	8	58,400
宮崎県	14	139,000	8	34,000	6	105,000
鹿児島県	10	105,000	11	81,000	-1	24,000
その他	7	53,000	3	23,724	4	29,276
総　計	1,185	9,977,735	1,136	7,833,715	49	2,144,020

92施設、722人の子どもたちに贈る

ランドセルや手提げ、図書カードなど

歳末募金を原資にした児童養護施設や母子施設の子どもたちへの新入学・卒業祝い品プレゼントは例年通り、この春小学校に入学予定の子どもや中学・高校を卒業予定の生徒たちが対象となる。

今年は福岡、山口、長崎３県の１００カ所の施設を対象に、事前に調査用紙を配布して、対象者数などを調べてもらった。その結果対象者は92施設に７２２人いることが分かった。新入学児童にはランドセルやリュックサック(水筒付き)、手提げ(筆箱付き)、雨具セット、図書カードのいずれか希望の品を、中学・高校を卒業予定の子どもたちには目覚し時計か図書カードを贈る。

このほか、歳末募金の第二次配分として福岡・山口県内の児童福祉連絡会や交通遺児を支える会、九州盲導犬協会、福岡・北九州のいのちの電話、北九州あゆみの会、障害福祉ボランティア協会など福祉団体に活動助成金などを贈る。

948人が1761点寄贈

チャリティー即売展　山口は初の新春展

チャリティー展に詰めかけ、熱心に品定めする美術ファン（福岡会場で）

全国の一流作家の方々の格別なご理解・ご協力による当社会事業団恒例の08年度チャリティー「全国寄贈書画・陶工芸品即売展」が北九州、福岡、山口各市の計3会場で延べ6日間開催され、山口展は初の新春展となった。今年度は948人の先生方から1761点の寄贈を受けた。売上高は未曽有の不況と悪天候が重なり激減した。経費を引いた益金は社会福祉基金として活用する。

今年度のチャリティー展では、全国各地に在住の約2300人の先生方に寄贈・出品を依頼した。この結果、部門別に洋画家425人、73点▽日本画家119人、210点▽陶芸家251人、406点▽工芸・彫刻家38人、90点▽書家32人、88点▽高僧・神官50人、172点▽芸能・文化関係者33人、62点、合わせて948人から1761点（前年度は932人、1765点）が寄贈・出品された。うち72人112点は初出品の作品だった。

3会場のうち北九州展(12月6・7日、北九州市小倉北区・毎日西部会館)と福岡展(同20・21日、福岡市中央区・アクロス福岡は例年通りの会場だったが、山口会場の決定が大幅に遅れ、日程的に新春チャリティー展としては開催せざるを得なくなった。前年度まで共催したデパート「ちまきや」が閉店したことで、その引き継ぎに時間を要し結局、年を越しac

不況と悪天候で売上げ激減

山口展が初の新春展にずれ込んだことで、売れ行きがどうなるのか、期待と不安が相半ばしたが、結果は厳しかった。

皮切りの北九州展が前年度をわずかに上回る順調な出足だっただけに期待したが、福岡展、山口展のころになると、昨年終盤からの急激な不況が徐々に浸透、そこに追い打ちをかけたのが当日の悪天候。福岡展は冷たい雨にたたられ、初の新春展となった山口展では2日間とも今冬一番の冷え込みと降雪などで客足を大きく鈍らせた。ここ山口展が前年度比212万円の減収になるなど、チャリティー展全体では前年度比約2733万円の大幅減収となり、経費を差し引いた約630万円だった。

◇会場別出品数と販売数

	07年度の残数	08年度会場別出品数 北九州	福岡	山口	合計
洋画	565	263	267	203	1298
日本画	188	71	81	58	398
陶芸	111	124	162	120	517
工芸・彫刻	18	32	37	21	108
宗教	95	56	59	57	267
書家	68	35	30	23	156
芸能・文化	48	21	20	21	110
合計	1093	602	656	503	2854
販売点数	471	281	316	229	1297

寒さ吹き飛ばす!!

障害者のボウリング大会開く　北九州市

障害者の体力の維持向上などを目的に第27回北九州市障害者ボウリング大会(市障害者スポーツ協会主催、毎日新聞西部社会事業団後援・助成)が1月25日、同市八幡東区の桃園シティボウルで開催Ⅱ写真Ⅱされ、会場は参加者たちの大きな歓声に包まれ、選手たちの元気なプレーで寒さを吹き飛ばした。

大会は、肢体不自由や視覚障害、知的障害など障害の状態によって10区分に分けて実施。当日は時折、雪も降るあいにくの天気だったが、市内各地から13～70歳の障害者116人が出場し、40人を上回るボランティアやスタッフがサポートしながら、各人2ゲームの合計得点で競った。巧みに車椅子を操る人、ボウルを転がすシューターを使う人、それぞれの障害に応じてゲームを楽しみ、中にはストライクを連発、2ゲーム合わせて400点オーバーの強者もいるなど、参加者らはピンの弾けるそう快な音や拍手などに後押しされてゲームを楽しんでいた。

第39回「毎日社会福祉顕彰」を募集

締め切りは５月31日

社会福祉の発展向上に功績があった個人や団体を顕彰する09年度の第39回「毎日社会福祉顕彰」（毎日新聞社会事業団主催、厚生労働省・全国社会福祉協議会後援）の募集が始まった。締め切りは５月31日。

この福祉顕彰は1971(昭和46)年の創設以来、毎年３～４人を顕彰し、昨年までに特別賞を含め個人１１７人、34団体を顕彰した。対象は、社会福祉分野における①学術＝優れた研究論文・資料の作成②技術＝独創的な科学技術、プロセスの導入で成果を上げた③創意＝独創的な発想、創意・工夫で業績を上げた④奉仕＝長年、国際的、地域的な福祉活動を継続⑤勤勉＝社会福祉施設などに30年以上勤続し、かつ顕著な成績を上げた⑥その他＝以上の各項に該当しないが、顕彰に値する功績があった個人や団体。

応募は他薦のみで、各県社会福祉協議会か毎日新聞西部社会事業団、毎日新聞各県支局にある所定の応募(推薦)用紙で〒８０２―８６５１　北九州市小倉北区紺屋町13の１、毎日新聞西部社会事業団（０９３・５５１・６６７５）へ送付する。

９月中旬ごろに審査結果を毎日新聞紙上で発表。受賞者には賞金各１００万円と賞牌を贈呈する。